

岡山宣言 2025：

持続可能な未来に向けた RCE の共同コミットメント

前文

1. 私たち、国連大学に認定された「持続可能な開発のための教育に関する地域拠点（RCE）」の代表者は、グローバル RCE サービスセンター、RCE ウブントゥ審査委員会、そして地域・国・国際機関とともに 2025 年 10 月 21 日から 23 日に、日本の岡山市で開催された第 14 回グローバル RCE 会議に参集した。この機会に、「岡山宣言 2025：持続可能な未来に向けた RCE の共同コミットメント」を採択し、持続可能な開発のための教育（ESD）の 20 年にわたる協働、革新、パートナーシップを称えるとともに、ESD を社会変革の推進力として発揮するという私たちの決意を改めて確認する。
2. 私たちは、人類が気候変動、生物多様性の著しい喪失、汚染、資源枯渇、社会的な不平等、急速な技術革新の圧力など、喫緊かつ相互に関連する地球規模の課題に直面しており、人間と地球のウェルビーイングに重大な脅威をもたらしていることを認識する。これらの危機には、体系的かつ包括的な対応が求められている。ESD は、個人やコミュニティが、課題に対して責任感、創造性、レジリエンス（回復力）をもって対応する能力を身につける上で独自の役割を果たしている。
3. 私たちは、RCE の優先事項を国際的な新たな枠組やイニシアティブに合わせて再調整する必要を認識する。これらには、「[我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ](#)」、「[平和・人権及び持続可能な開発のための教育に関する勧告](#)」、「[私たちの未来をともに再想像する：教育の新たな社会契約](#)」、「[緑化教育パートナーシップ](#)」、

「[教育変革に関するユース宣言](#)」、「[未来のための協定](#)」などが含まれる。RCE は、これらの国際的なコミットメントを地域に根ざし、文化的に適切な行動へと転換する上で、独自の位置付けを有する。

4. 私たちは、「[ウブントゥ宣言](#)」（2002 年）、「[トンヨン宣言](#)」（2012 年）、および「[2014 年以降の RCE と ESD に関する岡山宣言](#)」（2014 年）を含む、これまでのコミットメントの重要性を改めて確認する。「[RCE コミュニティのためのロードマップ 2021 - 2030](#)」および「[ESD for 2030](#)」を指針とし、これらの宣言や枠組は、私たちのビジョンに継続的な示唆を与え、教育システム、暮らしの中に持続可能性の価値を根付かせるという私たちの決意を一層強くするものである。
5. 私たちは、多様なステークホルダーとのパートナーシップを通じた地域社会に根ざした学びが、RCE の使命の中心にあることを強調する。RCE は、グローバルな志向を抱きつつ、学術研究を地域の現実、先住民族の知恵、文化的伝統と結びつけることで、包摂的で参加型、かつ行動志向の学習エコシステムを育む。これらの取り組みを通じて、RCE はコミュニティが優先課題を明確にし、文脈に即した解決策を生み出すことを可能にし、ESD の変革力を実践の中で具体化する。

ビジョンと価値

6. 私たちは、社会の構築において誰ひとり取り残されることのないよう、すべての人が活躍し、積極的に貢献できる、公正で包摂的かつ持続可能な未来を展望する。このビジョンを実現するために、私たちは、すべての人々のウェルビーイングとプラネタリーヘルスの向上に寄与することを目指して、生涯にわたって暮らしのあらゆる場に広がる学びを育む ESD を推進し、未来志向の思考、批判的省察、協働を強化する。

7. このビジョンを追求するにあたり、私たちは、[国連憲章](#)および [RCE 指導原則](#)に明記された、基本的人権の尊重、社会的公正、文化・言語・社会制度の異なる人々の共存、自然への敬意、表現と探究の自由などの中核的価値を重んじる。これらの価値に導かれながら、私たちは RCE メンバーが RCE 内および RCE 間のコミュニケーション、参画、協働において相互尊重を保つ、研究に裏付けられた ESD の実践を推進する。

行動への道筋

国際枠組の進展と、相互に関連し合う新たな課題に対応し、私たちは社会的・文化的・生態学的・政治的側面にわたって私たちのコミットメントを新たにするとともに、体系的な解決策を促進するために 5 つの優先行動分野を特定する。

優先分野 1：体系的かつ社会的変革の触媒としての ESD の位置づけ

8. 私たちは、フォーマル・ノンフォーマル・インフォーマル 教育にわたり ESD を推進し、教室の枠を超え、生涯を通じて地球と人々と調和して生きるための学習へとカリキュラムを再構築することを約束する。私たちは、主体性と民主的参加を育み、公正なポストカーボン経済への移行に不可欠なグリーンスキルを育成し、地球市民性と異文化能力を養い、そして生態学的相互依存の原則を尊重する ESD を促進することを誓う。私たちは、すべてのステークホルダーが共感と思いやりを持って教育や社会を変革するための知の生産者であり、主要な担い手であるという集合的役割を認識する。

優先分野 2：パートナーシップを通じた知識交流と地域の解決策の推進

9. 私たちは、多様なステークホルダーのパートナーシップを通じて協働し、協力することが RCE ネットワークの中核的価値であることを再確認する。政府、学術機関、市民社会、民間企業、ユース、地域コミュニティによる学際的・分野横断的な協働を通じて、RCE は ESD の知識を共創し、地域の解決策を拡大し、先住民族と多様な知識体系や、コミュニティ主導の実践を科学的研究と敬意ある対話の中で統合し続ける。ステークホルダーの参画

においては、精神性、先住民族やその他の独自の社会・文化・ガバナンス体系を尊重しなければならない。これにより先進的かつ文化的基盤に根ざした革新的な解決策が可能となり、貢献の公平な認識と利益の共有が確保される。

優先分野 3：ユースのリーダーシップの強化と活性化

10. 私たちは、彼ら自身が担う未来を形づくりにあたり、ユースを知識と行動の共創者として中心に据えることを約束する。ESD イニシアティブの計画、実施、評価の全過程において、意味のある包摂的なユースの参加が意思決定に組み込まれるよう、制度化する。私たちは、相互理解、信頼、尊重を育み、ユースに対する重点的な支援、メンターシップ、世代間協働、その他の制度的枠組を求める。これらの取り組みにより、ユースのリーダーシップが強化され、能力構築のための真の平等な機会が確保されるとともに、形式的な参加を超えて、ユースが十分かつ持続的に参画できるよう、障壁が取り除かれる。

優先分野 4：公平性、包摂性および正義の確保

11. 私たちは、教育の中で、また教育を通じて、公平性、包摂性、正義が、持続可能な開発と平和で公正な社会にとって不可欠であると認識する。RCE は、普遍的人権に基づき、女性、少女、障害のある人々、避難民、地域コミュニティ、先住民族、その他脆弱で、不利な状況に置かれた人々を周縁化する体系的な障壁に取り組み、教育および持続可能性のあらゆる側面において、彼らの完全かつ意味のある参加を保証することを約束する。包摂的な学習環境を育み、社会的・環境的・文化的正義を促進するコミュニティ主導の取り組みを支援することで、すべての人が貢献し活躍できる、レジリエントな未来の実現を目指す。

優先分野 5：生涯を通じた生活のあらゆる場における ESD のデジタル変革の活用

12. 私たちは、デジタル技術を包摂的で責任ある目的に沿って活用することが、すべての人にとって ESD を生涯にわたり、生活のあらゆる場に広がる学びへと再構築する可能性を有し



ていることを認識する。私たちは、すべての人に学習機会を広げるオープンでアクセス可能かつ安全なプラットフォームや教育資源を支持するとともに、デジタルツールはコミュニティに根ざした学習や体験的学習を補完するものであり、決して代替するべきではないことを再確認する。人工知能を含む新たな技術に伴う健康・環境・倫理上のリスクにも留意しつつ、学習者がデジタル空間の政治的側面を理解し、デジタル・エコシステムを適切に活用できる批判的デジタルリテラシーを促進することを約束する。

RCE ネットワークの拡大と強化

13. 私たちの集合的なインパクトを最大化するため、RCE のグローバルネットワークは、ウブントウの理念に基づき、RCE 間、そしてより広いコミュニティやエコシステムとの間におけるつながりを深め、ESD に関するグローバルな学習空間を構成する相互関連性を強化する。この活気あるグローバルな学習コモンズは、多方向の知識交流、協働的行動、世代間の連帯、そして深い問いとコミュニティのニーズや優先事項に根差した文脈に応じた取り組みを促進する。強化された地域間の協働は、共通の価値と能力を育み、喫緊の課題に対する共同の対応を促す。RCE はまた、教育政策に ESD を主流化するため政策立案者への働きかけを行い、ガバナンスが参加型で透明性があり、多様な地域状況に応じたものとなるよう確保することを約束する。これらの取り組みを通じて、RCE は、南北関係の強化への貢献を示し、生態学的・経済的・社会的優先事項のバランスの取れたアプローチを提示していく。

結論

14. 「岡山宣言 2025：持続可能な未来に向けた RCE の共同コミットメント」は、変革の触媒としての ESD 推進に向けた、再活性化された共同のコミットメントを示すものである。本宣言は、多様なステークホルダーのパートナーシップ、世代間協働、知識の共創、ユースのエンパワーメント、公正性と包摂性、そして責任あるデジタル・イノベーションに対する私たちの献身を強調するものであり、これらはすべて、文化的・認識論的多様性および民

主的参加に基づく、レジリエントで持続可能な社会を育む私たちの取り組みを支える基盤となる。

15. 本宣言は、平和と持続可能性に向けたグローバルな取り組みにおいて、教育と学習を最前線に据えるという、私たちの共同のコミットメントを示すものである。これらのコミットメントは、大胆で包摂的かつ説明責任を伴う行動によって実現され、本宣言が、私たちが共有する未来をともに形づくる原動力となることを確かなものとする。

